

## 銀行の支店名の不思議

JJ1SXA/池

通常、銀行の支店名は、「立川支店」、「立川駅前支店」等々所在地が分る名称が一般的だが、「おもち支店」、「チョコ支店」、「おすし支店」等々、これ等は、実店舗を持たないネット専業銀行の「ローソン銀行」の支店名で実在のものだ、この他にも「すずめ」、「はやぶさ」、「ふくろう」等の支店があるのは、「PayPay銀行」、「マーガレット」、「フリージア」、「パンジー」等の支店名を持つのは「セブン銀行」だし、「ジャズ」、「ロック」、「サンバ」、「ワルツ」等の支店名は「楽天銀行」だ、「イオン銀行」は「ガーネット」、「アメシスト」、「アクアマリン」等の支店名だ、「auじぶん銀行」は色分けだ、「あか」、「だいたい」、「きいろ」、「みどり」、「あお」、「あいいろ」、「むらさき」とわかりやすい、流石にネット銀行は、店舗を持たないから、地名のついた支店名は無い、色々考えたり、一般に名前を募ったりもしたようだ。

ところが、一般の銀行でも、ここ数年、銀行の支店名と実際の所在地が異なるケースが急増しているようだ、来店客は混乱しそうだが、各行は「預金者や融資先に最大限配慮した」と口をそろえるが、どうということなのか？

高級住宅街で知られる、東京・田園調布、三菱UFJ銀行の「田園調布駅前支店」は、東急東横線の同駅近辺には見当たらない、2020年10月に隣の「自由が丘駅」前に移転したからだ、移転先には、元々「自由が丘駅前支店」があり、同じ場所と建物に複数の店舗が同居している。

その翌月、みずほ銀行の「池袋西口支店」は、池袋駅をはさんで反対側の東口に移った、移転先は「池袋支店」と同一の場所や建物となるが、支店名は「池袋西口支店」のままになっている、東口に移っても、「西口支店」だ。

こうした複数の支店を一つの建物に置く方式は「店舗内店舗」と呼ばれる、入口には複数の支店名が表記されているものの、店内には仕切りは無く、支店長や行員も兼務することが多い、つまり、店舗は事実上吸収された格好となる。

吸収された店舗の名前を残すのには理由があるのだ、支店を閉鎖する際、かつて主流だった統廃合方式では旧店舗が名実共に消滅する。

その場合、預金者や融資先に「店番号」、「口座番号」を変更してもらう必要があり、銀行にとっても事務作業や費用面で大きな負担となる、これに対して店舗内店舗方式は、法律的にはあくまで「店舗の移転」と見なされ、「煩雑な変更手続きが必要無く」取引先に迷惑をかけない。

マイナス金利に伴う業績悪化や金融取引のオンライン化が進んだ16年ごろから店舗数の削減手段として導入が広がったようだ。

店舗内店舗方式には、システム障害などのトラブルをできるだけ避けたいという銀行側の思惑がある。

02年4月に「富士」、「第一勧業」、「日本興業」の3行が統合して「みずほ銀行」が発足した際、重複する店舗は統廃合方式によって支店名や店番号が変更された、その結果、店番号を誤って入力する顧客が続出し、大規模システム障害を起こす一因となった、これが、統廃合方式よりも店舗内店舗方式を選択する要因でもある。